

「傘寿の富士登山」 E36 熊爺参

50歳の頃、本社へ転勤を機に妻子を含め4人で始めて富士登山を実行した。

60歳の頃、E36有志に誘われボルネオ島のキナバリ山4095mを登頂した。

70歳の頃、E36阪西さんの企画による1合目から徒歩の富士登山に参加した。

二度目富士登山の時、80歳になった節目に三度目の富士登山を決意した。

他の登山と比較し、富士山は退屈な山であり2度登る山では無いとの評価。

全く同感であるが、私の節目登山は体力確認テストの目的が最も強いのである。

登山とは、二枚のレイヤーの重ね合わせと私は考えていて以下に、それを述べる。

一枚目は、体力診断であり、山頂までを往復する運動による心身への影響を診る。

二枚目は、楽しみや喜びであり、景色、花鳥、仲間とのコミュニケーションなど。

さて、今回は20日に出発し吉田口5合目までバス、登り始めたら降雨が始まった。

風景は雲と霧とに遮られ何も見えない。雨の中を歩き7合目の小屋に到着し宿泊。

翌日4時に起床し頂上の噴火口淵に到着。その神社と小屋は前日で今季閉鎖済。

登り着いた噴火口淵（お鉢）を左手に巡る。最高峰を目指すが途中の浅間神社に寄る。

吹き倒されそうな強風と冷雨、気温は5℃。神社を参拝し近くの山頂郵便局に這入った。

その日が今季閉鎖日で、あと10分後閉局。早く書いてくださいと郵便局に急かされた。

絵葉書1枚を買い自宅宛てに書いたが文言浮かばず、寒さで手が震え乱れ文字が記念。

局から追われるように寒気と強風雨へ戻る。ようやく最高峰に到着、気象観測所もある。

そこからお鉢の残りを半周し下山した。ずぶ濡れで8合目の小屋に到着し宿泊。



1日目も2日目も、夜は雲海が消失した。雨を突き抜け里の明かりが煌めき見える。

3日目も朝4時起床、降雨も霧も無い。5時10分頃、期待の日の出に遭遇した。

日の出を十分に堪能し、5合目を目指し下山。この日は曇天で陽射しは無く降雨もなく快適。



以上で2泊3日の登山を終えその夜帰宅。帰宅後も筋肉痛などは無く平常の生活に復帰。

一枚目のレイヤーである体力確認は中途半端で終わらず、計画通り実行でき満足している。

二枚目のレイヤーである景色、花鳥、などは得るはずのものが悪天候によりほぼ失われた。

4月中旬、8月20日出発ツアーを申し込む時台風など悪天候による中止リスクは覚悟。

だから二枚目が透明に近い残念な結果でも、自力で回避できない不運ゆえ、失望はほぼ無い。